

まきでら長谷寺1300年目の挑戦

ちょうこくじ

解体作業
仁王像の閉眼法要を行い、台座から降ろし、よしだ造佛所の工房までトラックで運び、燻蒸作業を経ていよいよ阿形・吽形の解体が始まりました。たくさんの取材陣の中、次々と作業が進み、仁王像は、頭、胴体、足、手とそれぞれの部分に分かれていきました。興味深いのは胴体。像の中で宝永4年(1707年)に書かれた墨書が発見されました。つまり、解体を伴う大規模な修復は約300年来初めてということになります。

修復の日々
仁王像のそれぞれの部位、傷んでいる箇所を丁寧に観察しました。表面の風化がひどく、元の彫刻を活かしながらパテなどで少しずつ修復。形がなくなってしまうところは高知大学の松島朝秀准教授と協議しながら新たに作り直す。細かい作業が無数にありました。ただ黙々と、仁王像と向き合い、修復の日々を重ねていきました。

2023年4月、地元の夜須小学校の児童を工房に招き、修復中の仏像について説明。子どもたちは「でかいー！ふとー！と歓声をあげながら、興味深く仁王像に見入っていました。その後子どもたちに「1000ねんこのきみへ」と題して将来の夢を書いてもらい、胴体の中に納

解体作業



▲1000ねんこのきみへ ▲吉田さんの説明を聞く児童 ▲胴体の中に残された墨書



▲竹井玄要住職



▲小林玄徹前任住職と吉田安成仏師



▲雅楽演奏をする吉田夫妻

仁王像開眼法要の様子

ヤ・シパークからとんとん北へ車を走らせ、くねくね道を約40分。途中「もうすぐやきね」「もうすぐ海が見えるよ」などの看板に案内されながら、やっとたどり着くのは夜須町羽尾にある山の上のお寺「まきでら長谷寺」。歴史は古く神亀4年(727年)およそ1300年前に建てられたお寺です。山の厳しい環境により激しく損傷していた仁王像が、このほど170年ぶりに修復されました。修復には4年かかり、この間留守になっていた仁王門も修理され、仁王像は長谷寺に戻ってきました。11月4日には「開眼法要」が行われ、新しくなった仁王門に鎮座された仁王像は、まきでら長谷寺、そして羽尾の門番として復活しました。

竹井玄要住職と小林玄徹前任住職、修復を担った吉田安成仏師ご夫妻にお話を伺いました。
(担当: 広報編集委員 田中たい子)

仏師 吉田安成氏との出会い
吉田さんは石川県の生まれで小さい頃からものづくりが好きで子どもだったそうです。14歳の時に縁で仏像に出会い、そこから仏師への道を歩むことになりました。京都や東京で文化財修復の仕事をしてきた吉田さんは、趣味の弓道で出会った沙織さんと2016年に結婚。同じ頃に独立し、仏像を古典技法で製作する工房「よしだ造佛所」を設立しました。その後、縁あって四国の仏像を修復することになり、拠点を沙織さんの実家がある高知の東洋町に移しました。

ある時、東洋町での活動が高知新聞に取り上げられ、それを見た長谷寺の前任住職玄徹さんは、早速会いに行つたそうです。まず毎年法要を行っている葉師堂(物部町)本尊「葉師如来像」の修復を依頼しました。吉田さんの技量を知らなかったのもあります。吉田さんは高い技術を持っていて、仕事は丁寧でした。こうして長谷寺の仁王像は、よしだ造佛所に依頼することになったのです。吉田夫妻は、これを機に娘さんを連れ、東洋町から夜須町羽尾へと移住することに。地域住民20人弱の集落で家族3人の生活が始まりました。

仁王像修復プロジェクト
長谷寺の檀家の皆さんと代々の住職さんが仁王像修復について思案していた所、先々代住職の池田宗石さんの奥さんから「遺産を仁王像修復にあててほしい。長谷寺をいろんな人に知ってもらい、ご縁を結んでほしい」という強い願いの寄付があったのと、檀家さんを中心に御縁を大切に寄進を募り、資金の目途がつかまりました。2016年3月。将来的に修復しなければならぬ長谷寺の仏像を調べ、未修復仏像一覧が作られました。修復前の仁王像、阿形の足は白アリなどの被害によりボロボロ、吽形の左手は肘から先は折れてしまっていました。一刻も早く修復しなければならぬ仁王像から順番に取り掛かることになりました。

次世代へつなぐ

▼左から、竹井歌織(玄要住職の妻)さん、竹井玄要住職、小林玄徹前任住職、吉田安成仏師、吉田沙織さん



復活した仁王像を一目見ようとたくさんの方が羽尾の長谷寺を訪れるようになりました。小さい頃住んでいたという90歳の方は、「仁王さん、怖かったなあ」など、昔の思い出を語ってくれました。昔、山で暮らす人にとつてお寺は心の拠り所。紙を口に含ませ仁王様に貼り付けることで、すべてを委ねたといいます。「檀家さんや地域のひと協力し、古いお寺を守り、知ってもらえるよう工夫を凝らしています。仏像を3Dプリンターで縮小製作し、実際に触れてもらったり、座禅会も定期的に行っています。将来、子どもたちが長谷寺を思い出して、貴重な日本の文化遺産を次の世代につなげてほしい」と語る竹井住職。山の上の長谷寺に、ぜひ足を運んでみませんか？

※参照:「まきでら長谷寺」ホームページ



「よしだ造佛所」ホームページ



仁王さんお帰りなさい！
待ちよつたよ
まきでら長谷寺仁王像一七〇年ぶりの修復

